

令和6年第6回吉備中央町議会定例会一般質問通告まとめ

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
1	7	平澤 一浩 (一問一答)	公民館の設立について	令和7年度には、学校統合により3校体制となること が決まっている。その学校名には今までのような地区の 名は入っておらず、地区の歴史においても新しい形を模 索する時がきていると感じている。 そのため、地区名が入った現在の公民館の役割が大き くなってきているのではないかと。	教育長
			1. 公民館の存在 について	地域住民との関わりについて、公民館の果たす役割を 町としてどのように考えているか。	
			2. 吉備高原公民 館について	吉備高原公民館は、令和2年6月1日から吉備高原小 学校の一角に置かれて、早4年が経過しているが、地区 には約700世帯が住まわれていますが、その活動の拠点 として適切な建物が必要だと考える。 町内の他の公民館と比較したとき、現在の状態は適切 と認識しているか、それとも改善の余地があると認識し ているか尋ねる。	町長
			3. 今後の展望に ついて	令和5年6月議会で吉備高原公民館の施設設備拡充を 願う陳情が取り上げられたが、審議結果は趣旨採択であ った。住民がひとつとなって活動できる拠点である公民 館として、吉備高原公民館は小学校を間借りしているこ ともあり、手狭なのが現状であるが、活動拠点としての 公民館の在り方について、町としてはまず地区内にある 既存の施設の活用を検討しているのか。	
			4. 施設について	検討した結果、既存施設ではなく新築であることが望 ましいと判断しているとすればどのような理由からか。	
			5. 新たな計画に ついて	新たな計画があれば、公表できる範囲で具体的な計画 やスケジュールはどうか。	
			6. 地域住民に期 待することにつ いて	計画通り進むために、地域はどのような取り組みをすべ きか。障壁となるもの、課題は存在しているのか。	
生活利便性の向 上について	災害のリスクが少なく、地盤が安定していることから、吉 備高原都市が注目され、東西住区も完売に向けて進んでい る。そのような中、住民からスーパーやドラッグストアな どの商業施設を切望する声が聞かれる。	町長			
1. 現状の認識に ついて	吉備高原都市の人口が増える中、町内において買い物 ができる環境、選択肢を広げることによって豊かなまちづく りへ繋がるのではないかと考えるが現状の認識はどうか。				

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(1)	(7)	平澤 一浩 (一問一答)	2. 現在の取り組みについて	利便性向上のため現在取り組んでいることがあるか。	町長
			災害復旧補助金について	温暖化の影響なのか、昨今自然災害が頻発している。町においても4月には雹、8月には台風の被害が発生し、補正予算が計上されている。	町長
			1. 町の補助金について	災害が起こらず補助金を使わなくて済むのが一番であるが、現行の制度はどのようなニーズに応えるもので、いつ制定されたものか。	
			2. 復旧工事費用について	施行時からの変更点はあるか。	
			3. 受益者負担について	昨今の復旧工事費用の高騰をどのようにとらえているか。	
			4 見直しについて	復旧工事の規模にもよるが、農業従事者の負担が大きいくように感じる。 ①75%、上限30万円の枠では心もとなく、農業収入では覆い切れないと思うが、認識はどうか。 ②上限額を上げる検討はなされているのか。	
			地域猫の活動について	地域猫活動が岡山県の地域猫活動支援事業という取り組みのなかで行われている。	町長
1. 町内における地域猫活動について	町内の活動について、現状をどのように把握しているのか。どの地域がしているのかなど、実態を把握しているのか。				
2. 地域猫活動を始めようとしている方々について	新たに地域の問題だと認識して、地域猫活動を始めようとした場合、初動の敷居を低くするために、猫用の捕獲かごなどを自治会長からの申し出により貸し出すなどによって、活動開始のサポートをしてはどうか。 予算として新たな財源が必要ではあるが、ふるさと納税の制度、クラウドファンディングなどを活用していくことはどうか。				

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
2	6	河上真智子 (一問一答)	緊急車両の通行の確保について	地域によっては、緊急車両の通行に支障がある箇所がある。町民の安心安全を担保するためには点検と対策が必要である。	町長
			1. 救急車の走行経路について	通報を受け出動した救急車が、遠回りの経路で現場に向かっていることがある。最短経路の選択ができないのには理由があるのか。	
			2. 通過や転回ができない箇所について	救急車が通過・転回ができない箇所があるが、町全域で地域の点検が必要ではないか。 また、そのような箇所を指令画面やナビ画面に表示できないか。	
			3. 2方向への通行の確保について	災害時などに路面や路肩の崩壊により孤立地区が発生する可能性がある。いかなる時も緊急車両の通行が確保できるための対策が必要である。	
			町内の高校を進学先について	町内に若者が残るよう、町内にある唯一の高校「吉備高原学園高校」を進学先として活用できないか。	
			1. アンケート結果について	中学生へのアンケート結果について、どのような感想を持たれたのか。	
			2. 高校が行っている学生募集の取組について	少子化と通信制高校などの進路の多様化で定員割れが続いている。学園側は打開策に取り組んでいるが、この動きをどのようにとらえているか。	
			3. 今後の対応について	高校の存続は、町にとっても重要な問題と思うが、今後の対応についてどのように考えているか。	
			旧竹荘中学校の活用について	旧竹荘中学校の活用について、現在プロポーザルで「優先交渉権」を付与された事業者と交渉中である。	町長
			1. 交渉経過について	3月以降の経過について、簡略な説明をしていただきたい。	
			2. 対象範囲について	対象物件全体の活用が要件とされているが、構想内容は合致しているか。	
			3. 施設改修計画について	施設の改修・維持管理計画は確実に履行できるのか。	
			4. 賃貸料について	町が定めた賃貸料の減免について、何らか交渉はあるのか。	
			5. 町費の投入について	大規模な改修が必要な場合、町費を投入しての対応がなされることはないのか。	
6. 事業の継続性について	雇用の創出や流動人口の増加等のメリットはあるが、何より安定的な事業の継続が重要である。十分な検討はなされているのか。				

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
3	1	日名 由香 (一 括)	町政について	<p>1 1月16日(土曜日)にロマン高原かよう総合会館で開催された「町合併20周年記念式典」では、町長より、これまでの歩みを振り返り、これからのまちづくりに向けた力強いメッセージがあった。町長の未来への熱い思いを聞いた。</p> <p>今後、さらに住みよい地域づくりを共に進めるために町長に2点尋ねる。</p>	町 長
			1. 今後の町の発展に向けたビジョンについて	<p>20年を迎えた現在、吉備中央町は、一層の発展を目指して、「デジタル田園健康特区」事業や「首都岡山」の提案など、様々な挑戦をしているが、町長が考える今後5年、10年の町のビジョンについて、どのように考えているか</p> <p>また、このビジョンに基づいた具体的な施策や計画についても尋ねる。</p>	
			2. 子どもたちの未来への投資について	<p>先日の式典で町長は、「若い世代に住んで良かったと思われるまちをつくる」と強調された。</p> <p>子育て支援、教育環境の充実、地域での体験学習など子どもたちが「帰りたい」「住み続けたい」と思えるまちづくりをどのように進めていくのか。</p>	
			教育の充実について	<p>令和7年度より、吉備中央町が行う「アフタースクール事業」。本事業は、子どもたちが体験活動を通じて、可能性を広げ、成長を実感できる機会になることが期待されている。事業を成功させるためには、保護者の方々に趣旨や内容をしっかり理解していただき、家庭からも参加を促す声掛けをしていただくことが必要と考える。</p>	教育長
			1. スケジュールの詳細と進捗状況について	<p>現在の具体的なスケジュールや進捗状況。今後の計画について尋ねる。</p>	
2. 体験活動の振り返りと改善への活用について	<p>子どもたちが体験した内容が、「やって終わり」にならないように、体験後に振り返りを行い、今後、子どもたちが成長を実感できる場や機会を設ける予定はあるか。</p> <p>その振り返りの内容をもとに、事業をより効果的に改善するための方針について尋ねる。</p>				
3. 今後の展望と持続可能性の確保について	<p>アフタースクール事業を長期的に継続するために、どのような取り組みや支援が必要だと考えているか。</p> <p>また、事業に関わる人材の確保についての課題や、取り組みについてはどうか。</p>				

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
4	3	我妻 瑛子 (一問一答)	PFAS 問題について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県外に住む方に対する血液検査は、いつまでにどのような方法で行うのか。 2. 今回の日程では受けていない希望者に対応する予定はあるのか。 その時期や方法はどうか。 3. 岡山大学・川崎福祉医科大学に委託した分析のスケジュールはどうか。 	町 長
			1. 血液検査について	<ol style="list-style-type: none"> 1. PFAS 関連疾患と指摘されているものを住民に周知する取り組みは考えていないか。(ただ「健診を受診してください」ではなく、なぜ必要なか知識が得られることで受診に繋がるのではないか。) 2. 特定検診項目に含まれないもの、例えば甲状腺ホルモンや腎エコー検査について、オプションで受診するよう後押しが必要ではないか。 3. 社会保険の種類に関わらず、健診の受診につながる取り組みはどうか。 4. 医療機関の相談体制について <ol style="list-style-type: none"> ①対応できる医療機関はどのように選定されているか。 ②その医療機関でどのようなフォローがされるのか。 ③そのために町として行っていることは何か。 5. 血液検査の実施間隔を5年より短くする検討はされているか。 6. 個々の住民と直接対話ができる場を持つ考えはないか。 	
			2. 健康フォローアップについて	<ol style="list-style-type: none"> 1. PFAS 関連疾患と指摘されているものを住民に周知する取り組みは考えていないか。(ただ「健診を受診してください」ではなく、なぜ必要なか知識が得られることで受診に繋がるのではないか。) 2. 特定検診項目に含まれないもの、例えば甲状腺ホルモンや腎エコー検査について、オプションで受診するよう後押しが必要ではないか。 3. 社会保険の種類に関わらず、健診の受診につながる取り組みはどうか。 4. 医療機関の相談体制について <ol style="list-style-type: none"> ①対応できる医療機関はどのように選定されているか。 ②その医療機関でどのようなフォローがされるのか。 ③そのために町として行っていることは何か。 5. 血液検査の実施間隔を5年より短くする検討はされているか。 6. 個々の住民と直接対話ができる場を持つ考えはないか。 	
			3. 汚染の責任について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 除染や賠償について、排出元の企業までを視野に入れた取り組みを検討しているという認識でよいか。 2. 独自水源損失についてどのように考えているか。(広域水道企業団への付け替えで解決したと考えているか。) 3. 水源の切り替えや給水活動、健康影響調査、除染などの費用負担について、国にも責任ある対応を求めるべきではないか。(使用・製造が禁止されているPFOAについて、廃棄までの法整備をしていなかった落ち度がある。) 	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(4)	(3)	我妻 瑛子 (一問一答)	猫の問題について		町 長
			1. 町に寄せられる相談について	主な相談内容は何か。	
			2. 飼い主のいない猫を減らすための町独自事業について	町独自で、飼い主のいない猫への避妊・去勢手術費用補助事業を実施してはどうか。	
			3. 対応できる担当者の配置について	飼育、エサやり管理や手術のための捕獲など、周知・助言できる人が必要。動物愛護管理担当職員、動物愛護推進員には相談があった際に現場で具体的なサポートをして頂けるようにしてはどうか。	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
5	11	黒田 員米 (一問一答)	円城浄水場問題 について	<p>1 資材置き場の表面の雨水浸透防止処置を早急に実施すべきではないか。現在も現地表面は一部分ブルーシートで覆ったのみで、何ら有害物質の雨水による土中への浸透防止処置がとられていない。</p> <p>まずは早急に土地全体へのブルーシート被覆による雨水浸透防止処置を行うべきではないか。</p> <p>2. 仮に、雨水浸透防止処置の実施について施工主体や財源について、原因者と思われる企業と協議中であるとすれば、その状況はどのようになっているのか。</p> <p>相手企業との協議内容によっては、雨水浸透防止処置の施工に影響があるのか。</p> <p>3. 土地所有者である財産区として、早急にブルーシート等資材を購入し、全面施工を行い、雨水による浸透防止を図り下流への有害物質の流出防止を行うべき。</p> <p>その後、その費用については原因者と思われる企業へ財産区として損害賠償請求すべきではないか。</p> <p>4. 詳細は求めないが、原因者と思われる企業に対する損害賠償の話し合いは進んでいるのか。</p> <p>5. メディアの情報によれば、環境中でほとんど検出されたことのない「H-PFAS」が岡山吉備中央町にあった使用済み活性炭と、200キロ離れた大阪・摂津ダイキン工場近くの地下水からそれぞれ検出され、その組成も一致したとのこと。</p> <p>京都大学の原田准教授によれば、「PFASの中でもきわめて稀な物質の組み合わせが大阪と岡山でともに検出されたのは偶然とは考えづらい。ダイキンの工場で作られていたPFAS類が活性炭に吸着したまま岡山に運ばれた蓋然性は高いだろう」との見解だが、この現実を町はどのように考えるのか。</p> <p>またどう動くのか係争中の案件に影響のない範疇で示されたい。</p> <p>6. 町としてPFOS問題について、国・県に対してどのような働きかけを行っているのか。</p> <p>また、今後行うのか今後の動きの影響のない範疇で示されたい。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(5)	(11)	黒田 員米 (一問一答)	吉備高原都市の後期計画について	<p>1. 吉備高原都市住区の販売が好調であり、協議中の区画を含めるとほぼ完売状態である。</p> <p>この好機をとらえ岡山県に対して吉備高原都市の後期計画の凍結解除とともに、地震の少ない地形的条件を生かした大型企業誘致、政府機能移転など積極的におこなうべき時期と思う。行政としてはどのように考えるのか。</p> <p>2. 人間尊重・福祉優先を基本理念として、昭和50年(1975年)3月吉備高原都市建設基本構想が策定され来年は50年となる。</p> <p>令和7年度において記念事業をおこない、さらなる町の飛躍につなげるべき好機と考えるが行政の考えを尋ねる。</p>	町長
			生活道路の維持管理について	<p>1. 一般質問で何回も繰り返し質問を行うが、町道を中心とした生活道路の草刈りや側溝の土砂撤去などの維持管理が、住民の高齢化や人口減少により非常に厳しい状況となっている。</p> <p>そのような状況の中でも心有る住民皆さんの半ば善意で生活道路の通行が守られている状況をどのように考え、今後、行政としてどのような取組みを行うのか。</p> <p>2. 他自治会からエリアを超えて維持管理に力を貸してもらっている実情をどのようにとらえるか。</p> <p>3. 上記以外にも松くいによる交通支障木など、地域や自治会の保有能力では対応不可能な場合への対応などはどのように行うのか。</p> <p>4. 今後も、住民組織や各種団体が自らの力で生活道路を維持管理するためには、吉備中央町道路整備草刈事業補助金の対象最低延長200m、年1回、事前申請を5月までなどの採択条件の緩和と、30円/mの補助金増額が必要ではないか。</p> <p>5. イノシシ等によって法面が崩落し、側溝への土砂堆積により量水が妨げられ災害防止のため側溝の泥上げ作業は重労働で有るが、草刈り同様に補助金制度を創設すべきではないか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
6	2	渡邊 順子 (一問一答)	吉備中央町の農業を取り巻く環境について	<ul style="list-style-type: none"> 現在の農地面積はどのくらいか。 納地面積に対して、作付け面積の割合はいくらか。(水田・畑・果樹) この農地面積の今後の増減推移はどうか。 	町長
			1. 農地面積について		
			2. 耕作者について	<ul style="list-style-type: none"> 平均年齢は何歳か。 今後の担い手、後継者の人数の推移はどうなっているのか。 	
			3. 耕作放棄地について	<ul style="list-style-type: none"> 今後の耕作放棄地の増減推移はどうか。 災害による農地被害に対しての補償はあるか。 	
			4. 新規就農者について	<ul style="list-style-type: none"> 現状はどうか。 離農者の有無とその理由は何か。 	
			5. 今抱える課題について	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化、後継者問題についてはどうか。 草刈り、草刈り応援隊、有害鳥獣対策についてはどうか。 所得をあげていくための施策はあるか。 	
			6. 地域計画について	<ul style="list-style-type: none"> 「人・農地プラン」が「地域計画」にかわるが、現在計画の策定中と思われるが、どうかかわるのか。 	
		7. 農業委員、農地利用最適化推進委員について	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの役割についてはどうか。 		

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
7	5	丸山節夫 (一問一答)	農業振興について 1. 米作り農家応援事業(ふるさと米)の現状と今後の取り組みについて	令和6年度米出来高の動向は、高温障害による品質低下、減収に加え、米不足による買い上げ競争激化の影響により、ふるさと米出荷数量の不足を招く事態となった。この状況を踏まえ、①～④について今後の取り組み方、特に④においては、町長の見解を問う。 ①本事業の現状と不足数量に対する調達見込み ②返礼品・買取数量、価格・支援金額の設定に関する基本的考え方(令和7年度以降) ③出荷契約書締結に係る公平性の確保 ④今年度の状況を鑑みて、今後の米作り農家応援事業推進に向けた町長の見解を問う。	町長
			2. 高温化対策について	今後高まる高温化現象は、確実に米作り経営を圧迫しかねる重大な要因として懸念される。 気候変動に対応すべく、今後の方針と提案事項に係る町長の所感の3点を問う。 ①旧賀陽地区での1等米比率は、令和4年度87.7%、令和5年度75.3%、令和6年度では55.7%と著しく減少している。(JAライスセンター以外の持ち込み検査分) この結果からも年次、高温障害が確実に現実化すると予測される。 これに関する行政の受け止め方と、今後の取り組み方を問う。 ②高温耐性品種(高温でも玄米の品質や収量が低下しにくい品種)として、「きぬむすめ・にこまる」のほか、各自治体で独自で開発した品種も多種あるとのこと。 これらを踏まえ、コシヒカリ以外の適応品種を新たな町の奨励品種と定め推進し、稲作主産地としての優位性向上に努めてはどうか。 対象品種(きぬむすめ・にじのきらめきなど) ③ふるさと米へ高温耐性品種の導入の考え方は如何に。	
			3. 農業機械購入補助制度について	8月定例会質問の繰り返しとなるが、現在の頑張る農家応援事業の再構築、また、新たな事業として、多くの農地管理を受託する大型農家(組織)への機械購入費(ドローン購入を含む。)補助支援策の必要性についての見解を町長に問う。	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
8	8	山崎 誠 (一問一答)	町内巡回バス(へそ8バス)の検証と足の確保について	町にとって足の確保は、医療の充実、買い物環境の整備とともに三大課題のひとつである。町内巡回バス(以下、へそ8バス)は令和3年10月から実証運行を始め、コロナウィルス感染拡大もあり令和6年度まで延長し実証運行を続けているが、他の公共交通手段と総合的に検討し、本格運行に移行するのか判断する時期と考える。 以下、尋ねる。	町長
			1. 利用実態の分析について	令和5年度の利用実績は1日当たり10.1人で10人の目標はクリアしたとのことであるが、収支比率は前年の1.88から1.68に低下している。年間約1800万円を投入している事業であり、単純な割り算でなく、1便当たりの利用者数、利用区間、利用時間、利用曜日、利用理由など効果検証には詳細な分析が必要ではないか。	
			2. 運行の見直しについて	新規の停留所、直行便の追加など見直し案が示されているが、利用の抜本的向上に繋がるのか。	
			3. 停留所までの足の確保について	当初から運行ルートから離れた人の利用は難しいと指摘されていた。 新山地区のマイクロEV撤退もあり停留所までの足が確保できなければへそ8バスの利用者は限られ、利用者増は見込めない。解決策や見直しはあるのか。	
			4. デマンド型乗合タクシーの拡充について	足の確保は最終的にドア・ツー・ドアに行き着くと思われる。デマンド型乗合タクシーは利用が増加しており、予約や配車などさらにきめ細かいサービスが出来るよう行政支援を拡充すべきではないか。	
			5. ふれあいタクシーの制度設計の見直しについて	ふれあいタクシーは近年利用が低迷減少している。これは利用のメリットが少ないからで、補助率を1/3から1/2、もしくは2/3に拡大し、医療機関であれば町外利用も可能とする制度に見直しはどうか。財政的にも令和6年度180万円であり十分可能と思われる。	
			6. へそ8バスの代替交通について	来年度、へそ8バスを継続するのか休止するのか、利便と収支を総合的に考慮すべきである。休止となれば当然生活に支障が出る人もいる。 利用者をきめ細かく調査し、上記デマンドタクシーやふれあいタクシーの拡充で対応できるのではないか。	
			小学校跡地利活用の行政支援について	町内小学校の再編に伴い、来年3月31日6校が閉校となる。それぞれの地域で利活用の協議が進められていると推察するが、進捗は同じではない。今年1月に公表された、学校跡地活用基本方針に沿って行政支援の具体的方策について尋ねる。	町長
			1. 地域利活用プランの提出期限について	跡地活用の基本方針を簡記すると、◎地域の要望、ニーズを優先する。◎公共活用を除き、効率的・効果的な施設運用となるよう民間事業者への貸し付けや売却を行うとなっている。地域の要望、ニーズの提出期限は決まっているか。仮に提出期限を過ぎた場合どのように進められるのか。	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(8)	(8)	(山崎 誠)	2. 地域要望の尊重について	地域、つまり当該校区でまとまった要望内容はフリーパスで承認されるのか。どの程度尊重されるのか。	
			3. 利活用未定の場合の経費負担について	基本方針には利活用が決定するまでの間は、必要最小限の経費によって施設の維持管理を行うとなっている。 ①来年4月以降も利活用が決まらない場合、決まるまで経費は支出されるのか。期限はあるのか。 ②必要最小限の経費はどの程度想定しているか。資料によれば各校それぞれ年間200万円～470万円となっている。この額は通常使用されている場合で、使用頻度が下がれば減少する一方、施設内外の修理、掃除、草刈りなど環境整備の費用が発生すると思われる。想定される経費は積算しているか。上限額など決まっているか。	
			円城 PFAS 問題の血液検査と土壌汚染対策について	昨年10月円城浄水場のPFAS汚染が発覚し1年余が経過した。水道水は発覚約1ヵ月後の11月22日に復旧したが、3年以上に亘って飲水した住民は健康不安を抱えたままである。 ようやく今年11月25日から、希望者約800人に全国初の公費負担による血液検査が実施された。 一方、PFAS含有フレコンバッグ置き場下流域のPFAS濃度は低減傾向を示していない。フレコンバッグから溶出した土壌汚染が高濃度で拡がっていると思われる。安全と安心を取り戻すため、以下尋ねる。	町長
			1. 血液検査の概要について	①検査を受けた人は18歳以上、18未満それぞれ何人か。 ②血中濃度はPFOS、PFOA、PFHxSなど何物質を計測するのか。また、検査機関はどこか。 ③採血関係、濃度検査・分析などに要した費用はそれぞれいくらか。 ④費用は原因企業に請求するのか。	
		2. 土壌汚染対策について	9月5日、原因究明委員会から報告書が提出された。報告書は、公共用水域、地下水、活性炭、活性炭置き場の表層土壌、深度（ボーリング）調査の結果など、PFAS汚染に関して網羅的に調査・分析し、対策を提言している。提言に沿ってどこまで実施するのか尋ねる。 ①今回ボーリング調査は2箇所、3mと14.9mであるが、他にも高濃度汚染の存在が推測されると記されている。土壌汚染の全容を掴むためには追加のボーリング調査が必要と考えるが行うのか。 ②提言では、汚染土壌を掘削除去し、清浄土壌で埋め戻し、コンクリート等により被覆し、継続的モニタリング調査により汚染濃度の推移を確認することが妥当とされている。これらの対策は実行されるのか。また、海外のいくつかの論文では、PFASはコンクリートにも浸潤するとされている。考慮されるのか。 ③円城財産区と事業者との賃貸契約では、原状復帰の返還となっている。土壌の入れ替えなど多額の対策費が想定される。追加の調査を含め概算は出来ているか。対策費は原因企業が負担するのか。負担可能なのか。		

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(8)	(8)	山崎 誠 (一問一答)		④12月1日のNHK番組で、円城PFASのさまざまな構成割合と大阪府摂津市のPFAS構成割合は極めて酷似していると報道された。関係企業の調査は行われるのか。責任はどうなるのか。	町 長
			3. 健康、土壌汚染対策の基金設立について	今回の円城PFAS汚染の全体的復旧はこれからであり、健康、土壌汚染、河川汚染など莫大な費用が必要となり、一企業では背負いきれない。関係企業、国、県、町が応分に負担し、対策基金を設ける必要があるのではないか。	
			「集いの場」の効果と支援について	2017年(平成29年)社会福祉協議会によって、「はつらつ元気体操」が奨励され、介護予防の効果を上げるため普及が図られた。この体操を採り入れ、さらに介護予防のバージョンアップを目指して地域の有志により「集いの場」が立ち上げられ、活動している。	町 長
			1. 介護予防の効果について	介護保険特別会計は年々増加しており、令和6年度は21億円余に膨れている。一日でも長い自立生活は本人にとっても家族にとっても幸いであり、財政負担も抑制される。「集いの場」の介護予防効果はどのように現れているか	
			2. 「集いの場」拡充の取り組みについて	現在「集いの場」は8箇所。コロナ禍もあり、近年設置箇所は増えていない。介護予防効果の周知、地域リーダーの発掘、設置環境の整備など社協と連携した行政支援を強化すべきではないか	
3. きめ細かい支援について	「集いの場」は体操、食事提供、利用者のコミュニケーション推進など7要件を満たすことを条件に、地域の団体、グループに委託され一定の補助金が交付されている。しかし、最近の物価高もあり経費は増え運営は厳しさを増している。「集いの場」を存続、拡充するためにはきめ細かい支援が必要である。以下3点を尋ねる。 ・利用者1人1回1000円の引き上げ。 ・光熱費の実費全額負担。 ・食事代の一定額の補助。 因みに、現在一人暮らしの高齢者の配食サービスには1食420円の補助がある。				